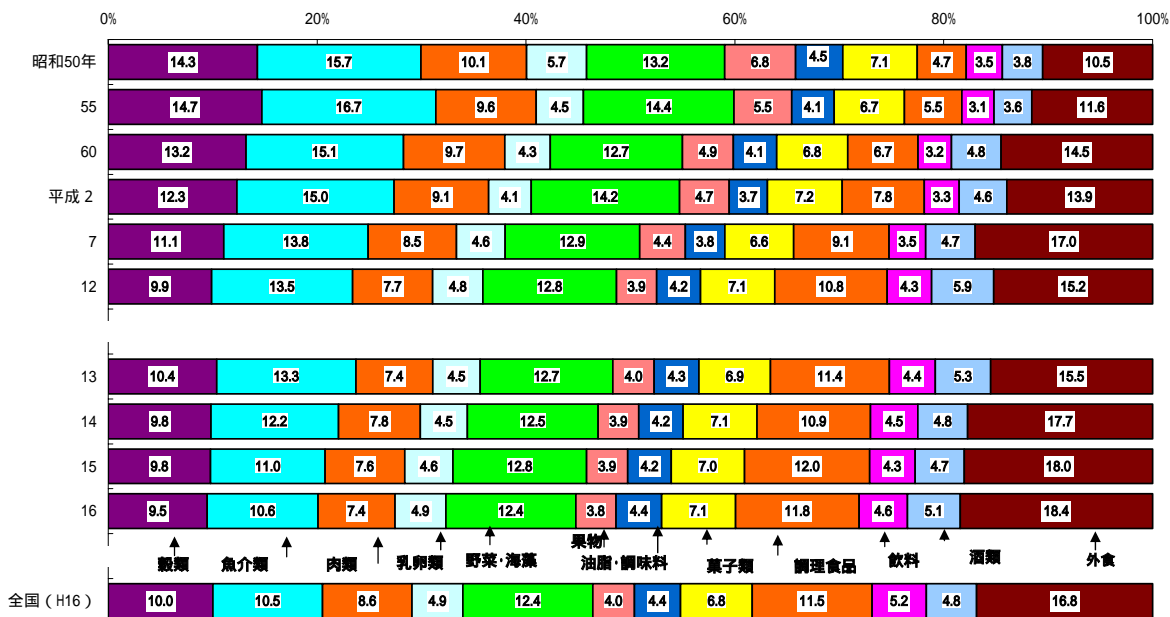


最近の家計支出の特徴

1 食料の動き

食料費の推移を支出金額割合で見ると、昭和 50 年と比べると、穀類 4.8 ポイント、魚介類 5.1 ポイントと大幅に減少し、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物も減少したが、外食は 7.9 ポイント、調理食品は 7.1 ポイントと大幅に増加し、飲料、酒類も増加傾向にある。(図 14 参照)

図 14 食料費の支出金額割合の推移 (金沢市・全世界帯)



(1) 酒類の推移

大幅な増加が続く焼酎・発泡酒

酒類を清酒、焼酎、ビール、輸入ウイスキー、国産ウイスキー、ぶどう酒、及び他の酒の 7 種類に分類して集計してきたが、平成 12 年からは、それまで他の酒に含めていた発泡酒を加え、計 8 種としている。

金沢市の 1 世帯当たりの購入金額を、平成 7 年を 100 とする指数で見ると、清酒が 15 年 73.9、16 年 66.3 と低下傾向にあるのに対し、焼酎は 14 年 293.5、15 年 374.3、16 年 401.7 と急激に上昇している。

また、ビールについては、同指数が 15 年 53.3、16 年 53.1 と推移している一方、16 年の発泡酒の支出金額は 12 年の 2.1 倍となっている。(図 15、16 参照)

16 年ランキングで見ると、金沢市は、清酒の購入金額が全国で 3 位。発泡酒は 6 位。他の酒 (果実酒、酒税法上ビールや発泡酒ではない第 3 のビールなど) は 1 位である。(図 17 参照)

図 15 年間の1世帯当たりの酒類の内訳の購入金額指数の推移（金沢市・全世界）

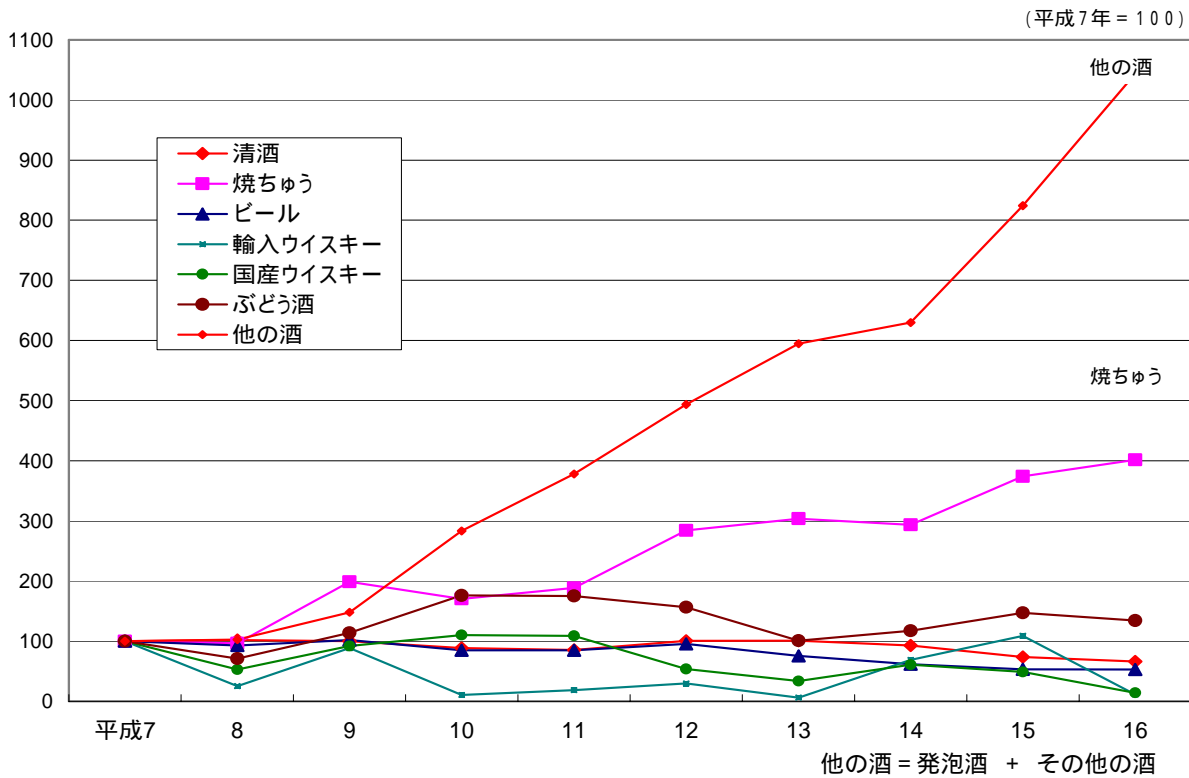


図 16 年間における1世帯当たりの他の酒購入金額の推移（金沢市・全世界）

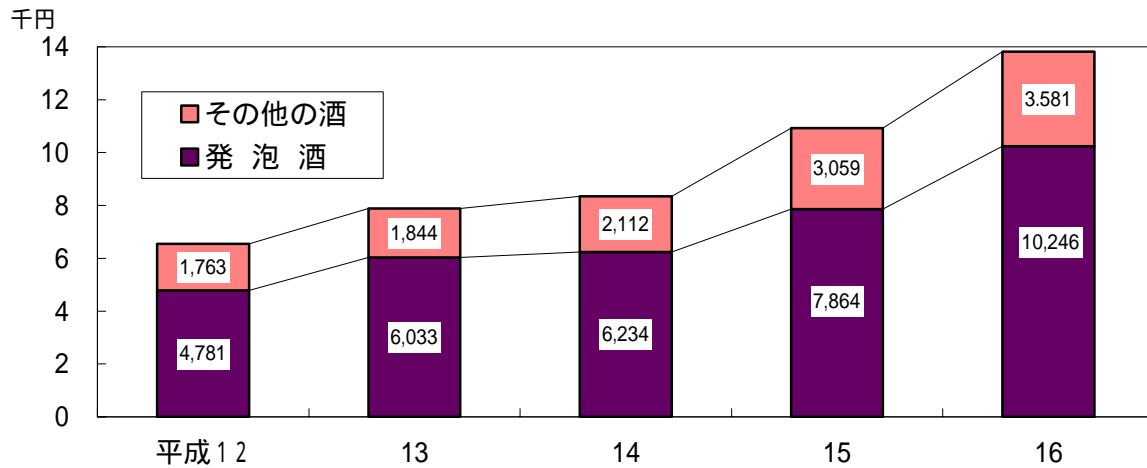
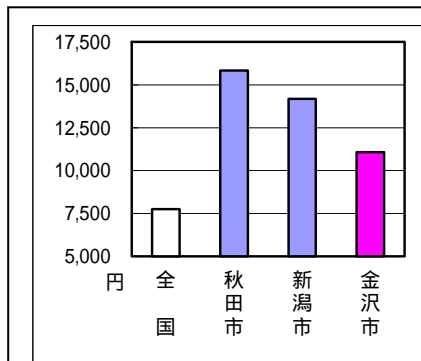
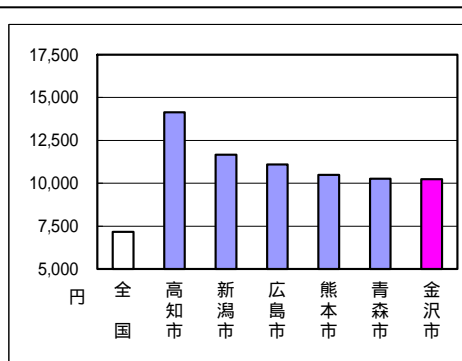


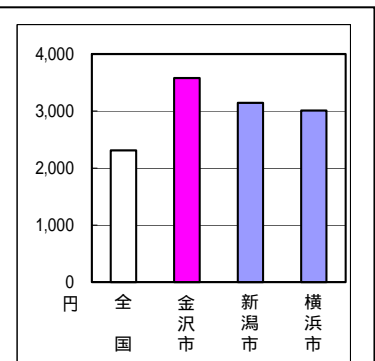
図 17 清酒の購入金額



発泡酒の購入金額



その他の酒の購入金額



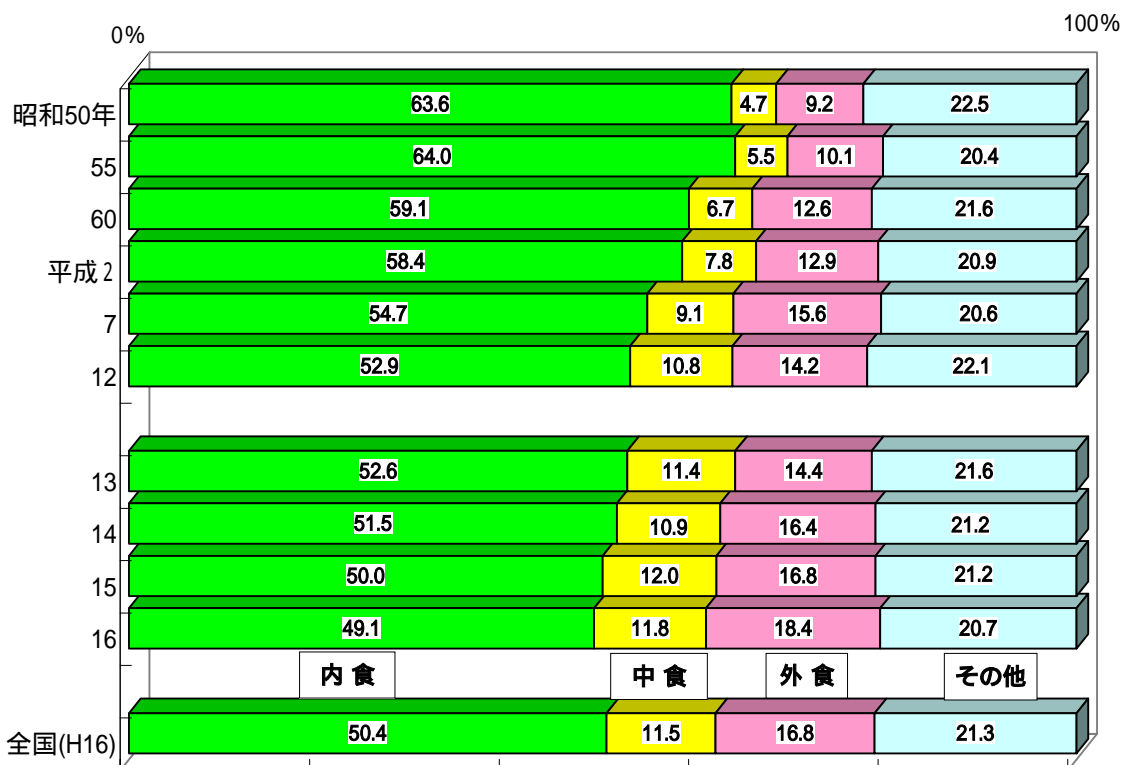
(2) 食形態からみた食料費の推移

増加する調理食品の利用と外食

食料費を、材料を購入して家庭で調理する^{注)}「内食」、調理済食品を利用する^{注)}「中食」、飲食店を利用する^{注)}「外食」などの食形態別に分けてみると、「内食」の比率は、昭和50年の63.6%から平成16年の49.1%と14.5ポイント低下した。

一方、「中食」は4.7%から11.8%と7.1ポイント、「外食」は9.2%から18.4%と2倍となり、調理食品の利用や外食が大幅に増加した。(図18参照)

図18 食形態からみた食料費の推移(金沢市・全世帯)



注) 内食：穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、油脂・調味料
 中食：調理食品
 外食：一般外食
 その他：果物、菓子類、飲料、酒類、学校給食

(3) 金沢市民が昔も今もよく購入する食品

「れんこん」の支出金額は昭和45年以降連続全国第1位

食料の中で、金沢市の1世帯当たりの年間支出金額が、都道府県庁所在市で上位を占める食品をみると「ぶり」「かに」「れんこん」「生しいたけ」「他の和生菓子」がある。

海岸線が長く新鮮な魚介が入手しやすいこともあり、「ぶり」「かに」など生鮮魚介は常に上位を占めている。

「他の和生菓子」は、加賀藩の時代から茶道が盛んなこと、催し物や季節の行事に用いられるほか、贈答品として多く利用されることもあり、上位となっている。

なお、「れんこん」の支出金額は、昭和45年以降、連続全国第1位である。(表2参照)

表2 金沢市民がよく購入する食品の支出金額の推移と全国ランキング

(金沢市・全世帯)

(単位:円)

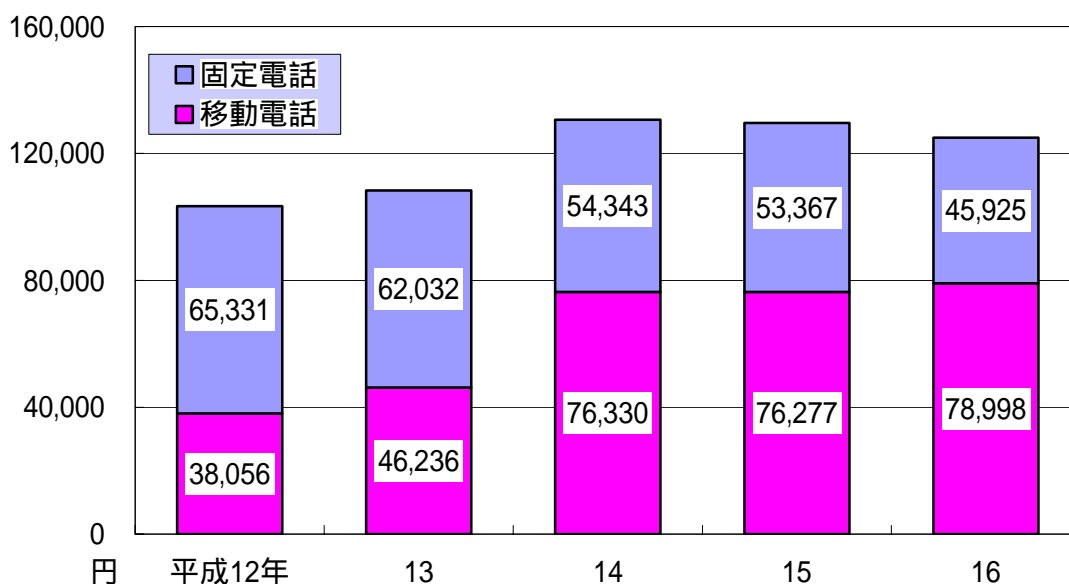
	ぶり		かに		れんこん		生しいたけ		他の和生菓子	
	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位
昭和50年	11,959	2	—	—	1,972	1	1,805	13	7,731	5
55	15,717	2	6,398	1	2,612	1	3,599	1	14,699	1
60	10,838	2	5,137	1	2,217	1	3,160	1	13,097	2
平成2	14,302	2	8,998	2	3,049	1	3,812	1	14,230	3
7	11,776	2	8,897	2	2,415	1	3,252	3	17,202	2
12	12,239	2	9,522	2	2,186	1	2,849	2	19,437	1
13	10,883	2	8,721	2	1,850	1	2,739	1	17,950	1
14	9,009	2	8,952	1	1,998	1	2,363	9	17,787	1
15	8,071	2	7,019	2	1,411	1	2,162	17	16,280	1
16	7,792	2	5,723	2	1,760	1	2,339	4	15,760	1

2 情報関連費の推移

増加が続く移動電話通信料

電話通信料が固定電話と移動電話に分離して集計された平成12年以降、移動電話通信料について年間1世帯当たりの支出金額をみると12年以降急激に増加し、14年(76,330円)は、12年(38,056円)の2.0倍、16年(78,998円)は2.1倍となっており、固定電話通信料を上回っている。固定電話通信料は、12年(65,331円)、13年(62,032円)、14年(54,343円)、15年(53,367円)、16年(45,925円)と、4年連続減少しており、電話通信料の36.8%となっている。(図19参照)

図 19 年間 1 世帯当たりの電話通信料の支出金額内訳の推移（金沢市・全世帯）



3 貯蓄・負債編

(1) 貯蓄・負債の状況

全世帯の貯蓄現在高は、1,960 万円、負債現在高は、603 万円

平成 16 年平均における全世帯の 1 世帯当り貯蓄現在高は 1,960 万円で、前年（1,937 万円）に比べて 23 万円の増加となり、2 年連続の増加となった。また、北陸 1,796 万円と比較すると 164 万円、全国 1,692 万円と比較すると、268 万円となり共に上回っている。

また負債現在高は 603 万円で、前年（485 万円）に比べて 118 万円の増加となった。また、北陸 411 万円と比較すると 192 万円、全国 524 万円と比較すると、79 万円となり共に上回っている。（表 3 参照）

表 3 年平均の貯蓄・負債現在高の推移（金沢市・全世帯）

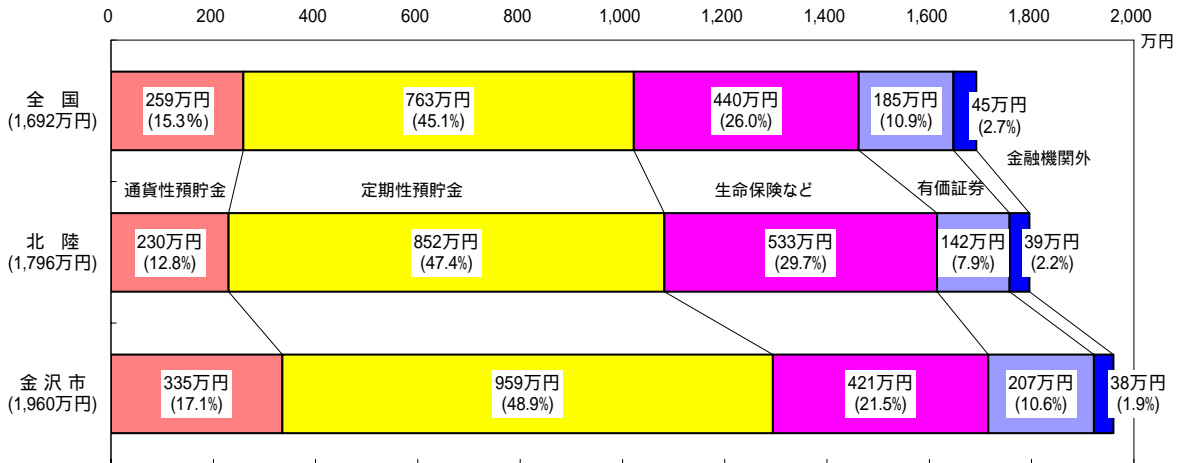
項 目	貯 蓄			負 債		
	金沢市	北 陸	全 国	金沢市	北 陸	全 国
平成14年	1,911	1,622	1,688	630	453	537
15年	1,937	1,611	1,690	485	417	508
16年	1,960	1,796	1,692	603	411	524

北陸の数値とは、新潟県、富山県、石川県、福井県の平均値である。

(2) 貯蓄現在高の種類別の状況

貯蓄現在高を貯蓄の種類別にみると、定期性預貯金が 959 万円（貯蓄現在高に占める割合 48.9%）と最も高く、次いで生命保険など 421 万円（同 21.5%）、通貨性預貯金 335 万円（同 17.1%）、有価証券 207 万円（同 10.6%）、金融機関外 38 万円（同 1.9%）となっている。（図 20 参照）

図 20 貯蓄の種類別現在高及び構成比（金沢市・全世帯）



(3) 負債現在高の種類別の状況

負債現在高を負債の種類別にみると、住宅・土地のための負債が 525 万円（負債現在高に占める割合 87.1%）と最も高く、次いで住宅・土地以外の負債など 63 万円（同 10.4%）となっている。また全国でも、住宅・土地のための負債が最も多く 463 万円（同 88.4%）となっている。（図 21 参照）

図 21 負債の種類別現在高及び構成比（金沢市・全世帯）

